

寄稿

# ウガンダ訪問記(上)

館山河辺 智美

ウガンダは、「アフリカの真珠」といわれるほど美しく自然豊かな国ですが、今なお多くの子どもたちが貧しい状況にあります。旧安房南高校から始まったウガンダ支援活動は、安房高校JRC部を経て、現在は安房西高校JRC部に引き継がれ、24年目を迎えました。

NPO法人安房文化遺産フォーラムとNGOウガンダ意識向上協会(CUFI)が交流の窓口となり、かじか婦人の村や安房・平和の美術展、館山病院健康友の会など多様な市民ネットワークの応援を得ながら、信頼と友情を育んできました。

昨年、活動の足となる車両が故障したため、クラウドファンディングや房日新聞などを通じて募金を呼び

CUFI代表のステュアート・センパラさんは、そう述べて、私たちが歓迎してくださいました。

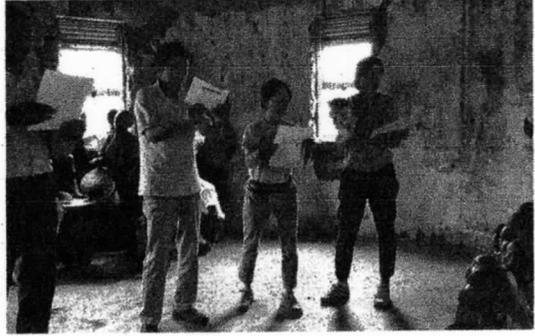
CUFIでは、人びとが希望をもって心豊かに生きられるように、子どもたちに教育を与え、コミュニティをサポートしています。センパラさんの息子ソロモンさんを含むスタッフ7人が、生計を立てる仕事に従事しながら、ボランティア活動に力を注いでいます。

CUFIの組織と活動 「遠い日本からウガンダの子どものことを思い続け、私たちが活動に理解と協力を示していただき、ありがとうございます。各プロジェクトがうまく進展するよう、メンバーとともにベストを尽くしていきます」

## 安房南洋裁学校の職業訓練

安房からの継続的な支援により、若者の自立を促して、安房南と命名された洋裁学校が2001年に設立されています。旧安房南高校で使用されていたミシンをはじめ、教室には机やイス、トイレなどの環境は整っています。現在の生徒数は6人で、電力の不安定など課題が多く、十分に機能しているとは言えない状況です。

その活動分野は、大きく分けて4つあります。①「安房南洋裁学校」での裁縫指導②「キタリア小学校」での教育・給食支援③「カウム・トレーニンクセンター」での農業指導④「メデ村」での教育・コミュニティ自立支援—などに取り組んでいます。安房から送る支援金は、年度ごとに優先順位を決め活動に有効活用されています。



キタリア小学校を訪問



メデ村の子どもたちと交流

使ったアクセサリやポシエツト、麻袋を利用したカバンなどをつくり、日本の安房の皆さんにも喜んでもらえるように、完成度を高めていきたいとのこと

キタリア小学校は歓迎の歌とダンス

首都カンパラの近郊にあるキタリア小学校では、ヤギや鶏の飼育、野菜の栽培などをCUFIが指導しています。自給自足で給食が毎日提供されるように、子どもたちは調理に必要な薪をもって毎朝登校しています。こうした取り組みは、学校に通う動機づけにもなり、集中力や学力向上につながっているといわれています。

メデ村のコミュニティづくり 北部のグル県は、約10年前まで武力紛争により大きな被害を受けていました。なかでもメデ村は、舗装されていない赤土のデコボコ道をひたすら北上したところにあり、茅葺(かやぶき)き屋根で赤い土壁の丸い家が点在しています。

今でも孤児や出稼ぎで親が不在の家庭が多く、村人たちがみんな子どもたちの世話をしています。CUFIでは、定期的に必要な生活物資を届けることも、村と学校間の送迎や授業料の支援を続けています。

将来に向け、自生するシアの樹から採取するシアバターの製品化や、色合い豊かな手づくりバスケットのクラフト製品などで、経済的な自立を促しているとのこと。コミュニティづくりの原点を学ばせていただきます。

(つづく、NPO法人安房文化遺産フォーラム理事)

# ウガンダ訪問記(下)

館 山河辺 智美

コーヒーベルトと呼ばれる赤道直下に位置し、標高が高く昼夜の温度差が大きいウガンダでは、良質なコーヒー豆を栽培することができ、アフリカ第二位の生産量を誇っています。

## 持続可能な農業実践

スチュアート・センパラさんは、1994年に日本の栃木県にあるアジア学院に留学し、有機農業の技術を学びました。カウム・トレーニングセンターでは、日本の学びを生かして、環境に負荷をかけない農業を周辺地域の人々にも指導しています。それは次々世代までも農地を残していくことにもつながります。

## コーヒー農園の視察

今回、ウガンダ産コーヒーのフェアトレードを先行している日本企業の紹介で、東部ムバレ県の農園を視察しました。ここでは希少なアラビカ種を扱い、農業に頼らない自然栽培にこだわり、有機栽培やフェアトレードの国際認証を受けていました。

## 小規模農家が集まる

畑の一部では、ロブスタ種のコーヒーを栽培していました。ウガンダ産コーヒーは、アラビカ種とロブスタ種の2種類があります。

ロブスタ種は成長も早く病害に強いのですが、安価でインスタントコーヒーなどに用いられています。一方、アラビカ種は病害に弱く栽培が難しいけれど、風味豊かな高品質なレギュラーコーヒーの原料として人気があります。CUFIでも将来は、アラビカ種の栽培を試みたいと考えています。

## ウガンダコーヒー月間キャンペーン

ウガンダコーヒーは風味豊かで、自然にも体にもやさしいといわれています。その魅力を広く知っていただきたいと思い、10月をウガンダコーヒー月間」と位置付けて、各店舗でウガンダコーヒーの提供やコーヒー豆の販売を行うキャンペーンを展開することにした。10月1日は「国際コーヒーの日」であり、9日は「ウガンダ独立記念日」にあたり、これを記念し、視察した農園のアラビカ種を仕入れて、おいしいウガンダコーヒーを味わっていただきます。

## 安房地域内の喫茶店

安房地域内の喫茶店などに協力を呼び掛けるところ、約20店舗の皆さんが快く賛同してくださりました。地球の裏側の生産者と私たち愛飲者がつながることを通して、市民交流が深まり、貧しい子どもたちが笑顔で学校に通い続けられるよう、ささやかな力添えになれば幸いです。

## 約10日間の視察で

約10日間の視察では、まだ眠っている資源地、ウガンダの美しい大自然と活動成果をびよんとしている芽が、あちこちで見られます。支援活動とは、裕福な側から貧困な側へ一方的に手を差し伸べ

コーヒーも販売しませんが、せひご来場ください。い。

## コミュニティ

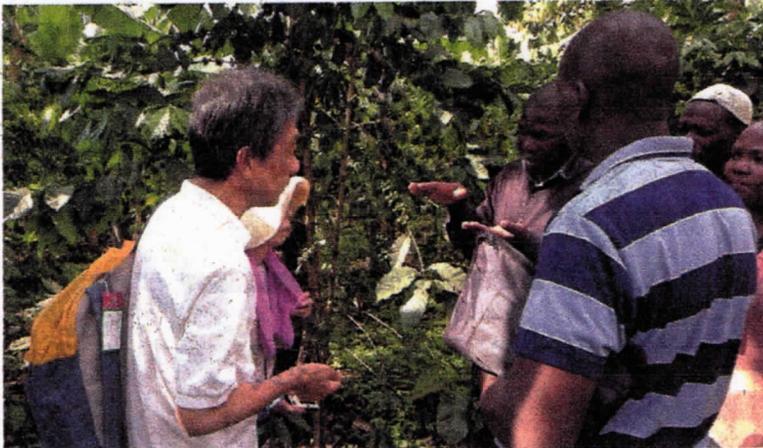
近年では、フェアトレードからさらに幅広い「コミュニティ」が注目されています。コミュニティとは、環境破壊、地域の過疎化・高齢化、後継者難、伝統的な文化や技術喪失といった多様な地域課題を解決するために、地域の人たちと一緒に事業化していく経済活動のことです。

## 今後、安房地域とウ

今後、安房地域とウガンダの西地域の活性化に役立つ商品と流通、知恵や意見の交流・交換を通じて、コミュニティづくりにつながる国際交流を展開していきたいと願っています。

## (おわり、NPO法人安房文化遺産フォーラム理事)

（おわり、NPO法人安房文化遺産フォーラム理事）



コーヒー農園を視察